

第3回小俣地区地域審議会会議録

期 日 平成 19 年 10 月 12 日(金)午後 7 時

場 所 小俣公民館 1 階 第1会議室

出席委員 17 名

欠席委員 3 名(岩尾栄三委員、藤村元美委員、山口友宏委員)

意見書回答者

市長、生活部長、合併調整室長

事務局 小俣総合支所長、小俣総合支所地域振興課長、

小俣総合支所地域振興課上村

議事

小俣地区地域審議会意見書に対する回答

詳細は議事録のとおり

市長諮問「一体感の醸成について」の今後の進め方について

11月ごろに中間報告として、各部会の進捗状況を報告しあう全体会を開催。来年早々に集約予定。

(支所長挨拶 省略)

会長

第3回地域審議会。9月に予定していたが台風で延期になり今日になった。今日は市長、生活部長、合併調整室長と、お忙しい中ご出席いただき、高いところからであるがお礼申し上げます。

昨年1年かけて私達が集約した意見書について、過日、市長直々にお会いいただき、正副会長と各部会長から提案説明申し上げた。市長は大変好意的に、真摯に受け止めていただいた。今からこの意見書について、市長のご意見を聞かせていただく。

市長のご挨拶の後、30分間、市長から回答・ご意見を賜る。その後30分間、それに対するみなさんの意見を募る。その後1時間は自由に意見交換していただく。意見書回答に対するものも含め、より多くの方に発言していただきたいため、1人3分弱で発言を終わらせていただきたい。時間が長くなれば私の方で切らせていただくので、ご協力をお願いします。1時間の意見交換については市長が即回答できないこともあるかと思うが、後で回答いただくということはない。あくまでも意見として申し上げ、市長の判断で施策に取り入れていただくのでご了解いただきたい。

市長

(挨拶省略)

6月に時間をかけて討議された意見書をいただくことになり、市政の抱える重要な問題についてご意見いただいたと、その場でもお礼を申し上げた。その後回答をまとめたが、広範囲にわたるので、回答が簡略化されている。また、包括的なお話しができないかと思うが、この後の30分間で質問していただくなり、すれ違いがあったら訂正しすすめていきたい。合併してもうすぐ2年。私はその間の1年半を務めているが、なかなか一体感のあるまちにならないのが一番の悩み。そんな中、小俣町のみなさんは、「おばたまつり」という祭を伝統的に進めていただいでいて、私も2回参加したが、市民一人ひとりが汗を書き企画運営している様子を見、うらやましく、力をいただいた。それに加え、旧伊勢市、二見、御園といった他地域のみなさんにも声をかけ、呼んでいただいでいる様子を見、「一体感の醸成」に非常にいい場をいただいたと感謝している。ともあれ合併して2年経とうとしているまちなので、これからさらに地域の意見をいただきながらしっかりとすすめていただく。2年目という大変いい時期にみなさんとの懇談の場に臨めたと思っているので、時間いっぱい使っていただいでご指導いただきたい。

会長 それではただいまから30分間市長から意見書に対する回答をいただく。

市長

<「伊勢市駅前開発」について>

駅前の検討委員会を組織し検討していたが、「駅周辺に大きな駐車場がある」という意見が出たため、検討を中断し、市で駐車場整備が必要か研究している。近々再スタートし、今年度中には方向をまとめ、具体的な整備に入っていきたい。ただ、行政が大掛かりな仕事をするとは考えていない。私は駅前を「伊勢市の顔」として駅前を少しリメイクしたいと考えていて、「大々的な開発を行政がすることは考えていない」といったことをお話ししながら、検討会の方向付けを期待しているところである。

・「駅前だけではなく山田全体として考える」という提案について

山田地域全体を「山田のまちルネッサンス事業」として、まちづくり交付金をいただき整備しようとしている。(小俣も駅前道路とか整備させていただいているが、これもまちづくり交付金を利用して行っている。)200ヘクタールを超える範囲で、山田が全て入るぐらい、北は東洋紡績の跡地まで含め、もちろん商店街も含めて、平成22年まで事業を決めてやっていこうとしている。

・「JR、近鉄との共同開発を」という意見について

JR と話をしながら一部調査に入っている状態。しかし、交渉には行っているが、鉄道は厳しく、のってこない。

JR の駅を直すのだから協力してくれと言っているが、調査をしてどこまで話にのるか決めましょうということで、JR に調査の委託をした。結果、全く話のにれないことになる可能性もあるが、なんとか押し込んで、「伊勢の顔」づくりのために協力してくれと話してある。

近鉄については今は直接話をしていない。JR に委託している調査事項がまとまり、こういう方針で直して行こうとなれば、近鉄にも協力を求める流れになるだろう。

・「プロを含めて検討を」という意見について

ルネッサンス事業を進めていくにあたり、コンサルなどのプロの力を借りることはもちろんのことである。検討会もそういった方も含めて組織しているし、これから具体的なプランになったら、なお一層そういった方の力を借りる体制になると思う。

・「まちづくり3法の活用を」という意見について

当然そういった流れも含めて、山田のまちを再生していきたいと考えている。

前回の遷宮は、宇治のまちで「おかげ横丁」が平成5年に事業をスタートした。宇治の方へかなり人が流れていって山田が寂しくなってしまった。従って、「今度(62回)の御遷宮では山田のまちをなんとかしたい」というのが私の思い。宇治と山田がバランスよく人を迎えることが出来て、はじめて伊勢のまちが賑わいが元気になると思うので、「今度は山田のまち」と決めて整備行っている。

<伊勢市駅前及び外宮参道の整備について>

「伊勢の顔」である伊勢市駅前から外宮までの間は、本当に大事なゾーン。最近神宮参道を「外宮参道」と名前を変えた。道路そのものは県の事業で、かなりきちっと整備していただいている。あの道路を活かして地域のみなさんがイベントを行ったり、参道沿いの商店街のリニューアルなど、いろいろ準備をしていただいている。座長に地元商店街の若い方が入り、御遷宮に向けかなり積極的に取り組んでいただいているので、そういった人たちと連携を密にしながら、なんとか仕掛けていきたい。

一步駅前を離れると、旧ジャスコ跡地も含め、民間の土地ばかりである。役所が直接手を下すのではなく、民の方が動きやすい形で協力していきたい。いずれにしても御遷宮に向けて、まちをつくる大きなチャンスである。

・ 「観光資源の掘り起こしを」という意見について

「伊勢市観光活性化プロジェクト」を組織し、うちの観光施策を一度全部洗いなおしてくれとお願いしている。「世界の観光地になるぞ」という宣言を私はしている。それしか残れない。県北部の方は製造業で元気。ほっておいても伸びていける。しかし南の方は製造業の恩恵にあずかることが非常に少ない。県の中では地域区分がなされていて、「南の方は観光誘客事業で食べていってくれ」と方向付けがされていると思う。南に位置する拠点のまちとしては、観光施策をしっかりと事業として打ちたて、なんとか御遷宮に向けて、一挙に観光客に伊勢へ足を向けていただけるような環境づくりをぜひやりたいと、観光のありかたについて再整備に入っている。併せて基本計画を作りながら6年後、7年後に花が咲くような仕掛けを始めさせていただいている。

< 大仏山の有効活用と観光化について >

大仏山公園については、大変いい財産をいただいたと思っている。小俣町が整備しつつ保ってきたスポーツ公園の流れに沿って、大仏山全体の方向付けができないかと思っている。県は従来の方針を変えていない。大堀川の改修事業完了とタイミングをあわせ、「大仏山を三重県はどうするんだ、われわれはこうしたい」と、キャッチボールを具体的にしたいと思っている。健康づくりや誘客のゾーンとして、何か企画できないかと私自身も考えていたので、今回の提案とそう違っていないと思っている。スポーツ公園とか、多目的な、市民が憩えるようなゾーン、また他所から来ていただいてそこでスポーツを楽しみ、その後伊勢にも泊まっていただけるような…。そんなことも夢見ながら、観光的な視点も持って挑戦していきたい。

< 朝熊山麓への企業誘致について >

前回の博覧会から13年。企業誘致に向け、やっと具体的に動き出すことになった。来年4月に、アリーナ周辺の高台に「産業支援センター」を開設。開設に合わせ、山麓の土地一体の区画割設計が終わっている。インフラも整備したので、議会に相談しながらどのような優遇措置をするか検討し、具体的な交渉に入りたい。引き合いが何社か来ていて、来年からは何社か入っていただけるように交渉を始めているので、動いていくという確信は持っている。

企業は、特色のある地域でないと来ていただけない。そうしないと、交通の便のいいところ、あるいは値引き合戦をやっているところに負けてしまう。環境と健康に特化した企業体であって欲しいという方針を出し、そういった企業に当たらせていただいている。

スポーツによる誘客をということで、フットボールピレッジを造ることになった。民間の応援をいただき、芝の競技場を整備する。合宿など滞在型で、スポーツで人に来ていただきたい。神宮によっても人は来ていただけるが、それは山谷がある。安定的に人が訪れる仕掛けがどうしても必要。そこで、スポーツ誘客。野球、サッカー、テニスの3種目が非常に誘客が多く、子どもたちや熟年のみなさんがお使いいただいている状況があるので、それを応援するよう環境整備に努めたい。その入口に朝熊山麓を充てたい。もちろん大仏山も候補地と考えている。

< 市勢(市政)情報の一層の充実について >

役所は出すことが仕事と考えているが、出す側の論理だけでなく、受け取る方にきちんと評価してもらえない情報など出しても仕方が無い。現在、必要な方に必要な情報が伝わるように、一度情報を整理し、情報提供のガイドラインをまとめている。

< 健全財政維持のため、思い切った行政改革の断行 について >

合併後、財政再建と言う大きな課題を担っている中、行政改革の実施計画をつくり、市民の方にも入っていただいてプログラムをまとめたので、進捗管理も含めしっかり進めていきたい。平成22年までに100人を超える職員を減らす。地方分権でどういうことが起こっているかという、国・県からかなりの仕事の流れってきていて、基礎自治体の仕事は増え、お金は減っている。そして人は減らす。そういう要件があるので、仕事を整理しない限りうちの行政体はパンクする。それで、業務の見直しプロジェクトを立ち上げ、仕事を3割切ってくれと指示を出し検討会がスタートした。それは、役所でなくていい仕事を3割出してくれという意味。それぐらいの気持ちでかからないと、仕事が整理できない。そんな形でこれから具体的に体制づくりをしていきたい。

< 行政サービスの向上と信頼関係の構築について >

私もくやしい思いをしている。私が就任して最初に言ったことは「あいさつをしよう」ということだけ。そこからはじめなければいけない状況だった。そして今も、まだ充分改善されていない。就任してすぐそういう雰囲気を感じたので、「市民への対応はもちろんのこと、お互いがもう少しいい関係を作って欲しい。仕事はチームで行うんだから、職員は仲間だと思って欲しい」とお願いした。「チームの中でおちこぼれを出さないでくれ」とお願いしていたが、残念ながらまだ、心を病んでしまって休んでいる職員がいる。お互いがもっといい顔をして仕事できる環境をつくらうということで、「和」という言葉をあげスタートさせていただいたが、充分浸透できていなくて、こういう指摘を受けることになったと思う。心して、よりいっそう職員には伝えて生きたいと思う。

・「役所の反応が鈍い、言ってもなかなか起きてこない」という意見について

役所と世の中の文化はぜんぜん違う。私も民間から来たのでそのことは非常に感じる。ぶつかるとも多く、「民間では通用しない」と議論することがたくさんある。役所に悪気は無いのだが、民間から見ると、とてもそういうペースでは仕事は流れていない。それをどこかで意識してもらわないと変わらないと思うので、事あるごとに言っている。地元からの要望の処理についてもなんとか早く流せるように話しているし、市民のみなさんからいただく貴重な声は、必ず自分を通すよう言っている。返事も必ずしている。自分が書くものも一部あるが、基本的にはスタッフが作成したものを最後に私が見てお返ししている。きちんと私のところに届いているので、「市民の声」だとか、インターネットの投書などもぜひお使いいただきたい。市民の声をきちんと受け、みなさんに信頼される市役所を構築していきたいのでご理解いただきたい。

・「保育園の入園待ちは、子育て支援の観点から考慮すべき」という意見について

来年度から小俣・明野両幼稚園とも、10人ずつ定員を増やした。一度にはならないが、そういう形でスタートしているのでご理解いただきたい。

<市町村合併により生じた格差が著しい水道料金体系の見直しと水道事業の健全経営を継続できる体制の確立について>

格差がある中で市町村合併したという経緯を持つ事業。合併協議の調整項目の方針に従って整備している。あわせて、新伊勢市全体のこれからのビジョン作りをスタートした。その中で合理的な経営の改善についても議論され、方向が示されると考えている。各市町村がやってきた合併以前のいいところを組み入れてビジョンをつくっていくので、ここでご指摘いただいた小俣の良かったところ等をきちんと吸い上げ、伊勢で実行していきたいと考えている。

<市民が安心して生活できる医療・福祉体制の確立>

一番心配されているのは、市民病院のありかただと思っている。平成 23 年オープンということで、日本赤十字病院の東洋紡跡地への移転改築が決まった。また、研修制度の弊害で、都会へ若手が行ってしまい、これでは身体が持たないと、ベテランの先生方が独立の方向へ向かわれ、結果、勤務医が非常に減り、診療科目を縮小せねばならなくなった。このような中、これからの伊勢市民病院のありかたについて、各分野のエキスパートに集まっていたいただき検討していて、もうすぐ最終答申となる。今年度中にお示しできると思う。みなさんに議論していただけるものをまとめて議会へ提案し、方向を決めていきたい。

<学校教育、社会教育の充実について>

・「世代を超えた交流が学校教育に必要」という意見について

私の小さい時は家庭でタテの系列の意識がきちんと身につけられたが、今はそれが無くなってしまい、地域社会でそれをしなければならなくなった。「学校の中に世代を超えたみなさんが入ることによってそういった教育効果がえられるのでは」という考え方もあって、世代を超えたコミュニケーションを大事にするような工夫も一部の学校

で始まっていると聞いているので、ぜひそんなことも活用しながらすすめていきたい。
・「放課後小学生が気楽に立ち寄れる場所を公的施設から指定を」という意見について

現在 24 小学校区のうち13校区ぐらいに学童クラブがある。運営も、私立、公設民営、公設公営などさまざま。合併時の地域差でこのようなことになっているが、なるべく早いうちに統一したいと「各学校につきひとつ、必ず作る」という方針を出した。学校 周辺の保育所・幼稚園 周辺の公共施設 民間の施設の優先順位で学校近くの空きスペースを借り、学校を終えた子どもたちの居場所を作りたい。運営主体はできれば地域でやって欲しい。ニーズのあるところから、体制ができるところから、児童クラブの設置をすすめていきたい。

・「学習支援員の充実を」という意見について

少人数学級は進んできているが、課題の多い子どもたちも間違いなく増えている。「学習支援員の力を借りないと充分に対応できない現場がある」ということも聞いているので、そういったことも含めながら、学習環境の充実に努めていきたい。

要点だけ、というか私だけの思いを語らせていただいた部分もあると思うが、みなさんにご質問いただきながら補足したい。

会長

ありがとうございました。私たちの提案した事柄について、ご意見をいただいた。では今から30分間、みなさんからご意見があれば。

委員

まちづくりという観点から山田の町について説明いただいたが、伊勢市は観光をメインにするとやっているが、御遷宮による盛り上がりの後の「観光」はどこに求めるのか。

市長

観光で食べていくと決め、御遷宮をきっかけにしようと考えた。御遷宮の後下げないような工夫として、車で来る人には限界があるので、海上アクセスをお願いしたい。というのは、「世界の観光都市になる」と決めているからだ。世界の観光拠点になる要素はある。それはここに神宮があるから。この間もフランスミシュランが来て、三ツ星で世界に通用するのは神宮だけだといって帰っていった。彼らに言われるまでも無く、神宮は世界に通用する文化。ここをきちんと売りに出したいため、国際空港とのアクセスはどうしても欠かせないということで、来年の春にスタートを切らせていただいた。「日本を訪ねたらまず伊勢に来てくれ。まずここへ来て、日本人の心根文化をまず感

じてもらって、それから日本観光していただけないか」というようなキャッチフレーズで売り込んでいきたい。それから、これまで来ていただけなかった遠隔地の方々が、中部国際空港から直接伊勢へ入っていただける、そういうことも含めて海上アクセスを整備したい。これからの誘客については、今までなかなか手が伸ばせなかったところへ売りに行きたい。

委員

私としては「伊勢市の中に神宮があるんだ」という思いで推進していただきたい。

委員

事業を3割削るということについて。平均して3割なのか。子どもにかかわることは削らないで欲しい。

「夏休み子どもクラブ」を3年間、18年度まで、教育委員会小俣分室が主体となってやってきた。18年度は小俣の総合型地域スポーツクラブASRECに徐々に移管しながら、ボランティアが出て夏休みに子どもたちと遊んだり勉強を見たりしていた。19年度はASRECが力を入れてやろうという動きはあったのに、ポンと教育委員会と離されてしまい、なかなか急にはASRECのみでできなくて、結局できなかった。どういう状況かは教育委員会から聞いたが、こういうことを削るのではなく、民間に移行できるような方向で市職員は力を尽くしていただきたい。

市長

3割カットは一律でやる気はない。今プロジェクトを組んで、職域を越えて仕事を整理してもらっている。それで、可能性のあるものをテーブルに3割出してくれと言っている。あがってきたものを検討した結果、2割になるかもしれないし、1割になるかもしれないが、3割と言う目線で仕事を見直して欲しいという意味である。

民間に出す件については、民間に渡してよりサービスが充実するものについては渡す。そうでないならば、まだ課題があるということ。受ける方がよりサービスを受けやすくなるような形・相手を探していきたい。

それから教育委員会が……。申し訳ないですね。それはどういった……？

委員

「子どもプラザ」という、16年度教育委員会主催でスタートした事業。夏休みに子どもたちが帰ってきて、子どもの親は忙しいので、地域で出られる人に手伝ってもらって、小学生を週1回みるという内容。ボランティアが一般から出て、教育委員会からもだいが出ていただき、明野・小俣両小学校ともしていた。それが、18年度はASRECを立ち上げて、そのときは教育委員会もかなりバックアップしてくださって、なんとかできた。

ところが 19 年度はできることなら ASREC でしてくれと。若干違うかもしれないが、18 年度末に「19 年度に継続し欲しい事業は教育委員会から出すように」という話だったのだが、「子どもプラザ」については特にそこに出さなかった、と言う経緯があったそうである。結局は 19 年度はできなかった。

会長

市長、その経緯については支所長の方から説明します。

支所長

事前に委員さんがされたような、同じようなお話を伺ったので、生涯学習スポーツ課長にも確認した。

過去には 16,17 年度に小俣の教育委員会が「子どもプラザ」と言う事業を立ち上げた。18 年度は ASREC に事業委託している。19 年度予算を組む時、ASREC に「お願いできますか」という話をした。ASREC は継続が困難だと回答された、というのは、子どもを預かるのに保護者のボランティアが少なく、ASREC だけでは継続は困難だということであった。と言うわけで、19 年度は事業ができなくなった。ただ、教育委員会としては、これはとてもいい事業だと捉えているので、何らかの形で考えていきたい。ただ 19 年度についてはお休みさせていただきたい。それから、地域の方々のお力をいただかないと、教育委員会だけではなかなか難しいので、そのあたりを整備するのにお時間をいただきたい。…というのが教育委員会の話である。

委員

駅前開発に関し「行政が先頭に立ってはやらない」と市長の発言があったが、市長は「トップセールスマン」。事業をするにしても誘致するにしても、市長が中心になってやっていただかないと、下の者が動かないと思う。

先ほどあげた山田地区の再開発については思い切った方法を講じてほしい。その一つは、議会でも取り上げられていた、JR の高架の話。伊勢市内から救急病院へ行くのに、踏切で 5 分以上止まる。伊勢市駅の敷地の中に、シンボリックなもの、駐車場や商業施設などを作っていただきたい。今回のことはもう一度 JR や近鉄と話し合いを。「土地を提供していただけないか」だけでなく、「全体でこういう構想を持ちます」と市長が音頭をとれば、JR の考えも変わると思う。

お金の問題について。合併特例債が約 400 億あった。このうち 95% は起債が認められるので、380 億。ただしそのうち 30% は市税で賄われるので、へたなハコモノは作れない。その金を有効に使えば、将来市民が豊かになるのではないか。全国を見ても、合併特例債を使いすぎて大変になったところもあれば、逆に上手につかって発展していくところもある。どうしてこのようなことになったか、我々も勉強している。

今合併で地方交付税返上になっているところは、法人税・事業税で稼いでいるところばかりなので、観光中心の事業展開が必要。それには人・モノ・カネを見直し、市長が先頭に立って動いていただきたい。

市長

JR の高架の問題は、自分の任期中には形にならない。たぶん4～500億かかる。市として手が出せない。うまくいけばつぎの御遷宮でしかけていただく、そのような事業であると思っている。

駐車場の問題について。JR は、鉄道のためには売ってくれるが、車社会のためには売ってくれない。さんざん話をしているが、まったくのさ話ではない。従って、その案は JR さん自身がこれからこの土地をどのように使うのか、駐車場の必要性も含めてまとめている状態。市が提案し事業化できるような土俵にはなっていない。

駅を少しリニューアルするだけでも非常に抵抗がある。私は全て税金を使ってやらなければならないのかと思っている。それぐらい伊勢市の駅に金をかけようという気がない。もっともっと乗降客が多くて手をかけなければならない駅がたくさんある。伊勢はその順番になかなか出てこない。

合併特例債は、枠としては300～400億ぐらい可能。しかし合併協議の中で前首長が200億程度という見通しをたてている。後々のツケも考え、簡単に使うわけにはいかない。全体としてそのぐらいの中で、有効に使わせていただこうと思っている。

観光はもちろん重点施策としてやっていくのだが、企業誘致も具体的に動き出している。朝熊山麓、神園、下野工業団地を重点的に売っていきたい。健康と環境に特化した伊勢ならではの特色ある企業を誘致したい。

委員

学校教育について。旧小俣・御園・二見は行政の手厚い理解を得て充実した学校教育ができていたが、合併してから学校の予算要望がとりにくいと聞いている。特に、学習支援員や少人数学級の非常勤講師が少ない。また、旧小俣・御園・二見とも非常にスポーツが盛んで成績も良く、大会に出向く機会も多かったが、選手派遣費等が、予算をつけてもらいにくく、父母への負担が大きくなっている。

このように、旧3町村の学校は教育面で抑えられている。低い方ではなく高い水準に合わせていただき、充実した教育が受けられるよう配慮をお願いしたい。特に小学校の指導員数には配慮を。

教育委員会について。前は交流もあって非常に良かった。それが面識も無くなり、学校の思いが伝わりにくくなった。特に他団体との調整がやりにくい。青少年育成会議と学校と民生委員との関係とか。以前は教育委員会へ行って「こういうことあるんさなあ」と言えば、教育委員会から他団体とすぐ調整していただき、非常にスムーズに

いていたが、今は非常に手薄になっている。この4月からは人事の面からも、教育長もその他の教育委員も全員旧伊勢市の方なので、そのようなことも影響しているのか。

今になって変化が急激で、とまどい、やりにくい感じが強い。教育予算が削られ、合併協議も前倒しされている。

市長

積み上げ方式の予算をやめ、部別枠予算という作り方をしている。部全体の予算枠だけ決めさせていただき、部内で予算の調整をしてする形をとっている。個々のプログラムで手薄になっているところがあれば、今のような話を教育委員会へきちんと伝えていただいたらありがたい。直接話す方法もあるし、議員に訴える手もある。ただ、全体の予算は大変厳しいので、そのあたりはご理解を。

教育環境は、旧市が旧町村に追いついていない。申し訳ないが、耐震すらできていなかった。耐震は平成21年度までに終わらせようとしている。それが第1優先。その次のエアコンは、他の3地区は全て終わっている。逆の教育格差をずいぶん指摘されているが、耐震が終わるまで手を付けない。こういった大きなものについては優先順位の高いものからやっていくが、個々のプログラムについては現場の声を届けていただきたい。

会長

時間もあるので、意見書に対する回答はこれで終わる。

その他の意見を受け付ける。これについては文書回答は無しとする。

委員

2点、意見書回答に対する意見の延長として申し上げる。大仏山の有効活用について。憩いの場所としては大仏山は非常に候補。足湯、地産地消、文化活動や子育て支援の拠点、自然観察なども。

公園は県の管理下。私はひょんなことから県知事にこの案をお渡しする機会があった。3週間後、県から電話があり、「県には森林を公園化したものが、大仏山を含め6箇所ある。公園はこれまでビジネス的なことはしてはいけなかったが、情勢が変わったので、建物とかを市で建てるのであれば、園内にそういう施設をつくっても良い」という返事であった。スタートを切ったのが亀山のサンシャインパークという話であったので、見てきた。地元企業や有力者が出資していて、亀山市は全然払っていないが、立派な施設であった。15ぐらいの商店が入っていた。詰めていくと、できないと思っていたことができるようになることがある。尾鷲市の疲弊した状態を脱却するために10人の熱心なNPOが動いたように、大仏山の活性化について考える協議会を市長

が作っていただけたら、我々熱心な者が寄れるのだが。

市長

県の方針が出ていない。工業用地・住宅団地としての色合いでやってきた土地で、その整理ができていない。市としても提案をしていきたいが、排水問題が解決していないため、こちらが何を言っても県は動かない。今は少しでも大堀川改修を終わらせる。あと数年かかるが、それが終わって初めて知事が絵を描くことができる。しかし、非常に大事な財産なので、使いたい。私のイメージでは、スポーツ公園的に使いたい。種目の研究、またその方向でいけるかどうかの検討も必要だが、近くにサンファームおばたもあり、その環境も活かせると思うので、時期を見て大仏山のプロジェクトを立ち上げることにはなると思う。ぜひいろんなところを調査して煮詰めておいていただきたい。具体的に動くときにはぜひお願いしたい。

会長

まだ発言されていない委員はどうか。

委員

医療の問題について。地域で非常に医者が集まってくる病院がある。都会に研修医が逃げていくシステムが問題なのではなく、研修できる病院を作ればいい。そうすれば、全国から医者が集まってくる。たくさんお金を出して医者に来てもらおう、というのはこれからは難しいと思う。また、三重大に地域医療学講座というのができた。こちらがこれからアクティブに三重県の医療を考えてくれると思う。そのへんにもアクセスしていただきたい。都会へ逃げていくというような考えを改めないと、地域の医療は難しいのでは。赤十字病院も、全国の赤十字の中で欠員がかなり多い病院となっている。伊勢病院ができなかったら赤十字病院がやってくれるだろうということでは、赤十字も大変。大きくするという話だが、それで果たして動いていけるのだろうか、周りの開業医は見ている。という訳でちょっと認識を変えていただければ。

市長

私は医療界のプロではないが、病院の先生方とか院長先生から状況を聞き、客観的な情報も得ているので、そういう判断が大勢なんだろうなと認識している。いくつかは特色ある、研修のしやすい病院として成り立っているところもあると聞いているが、どうあれ伊勢はどうするか、ということ。2つの大きな病院が役割分担をしなければ、持たない。高い医療機器を双方が持つような時代は、これからはもう無い。経営が成り立たない病院はやれていけない。それから病院が果たす役割、開業医が担う役割は異なると思う。だから、この13万6千人のまちとして、どういう医療体制が全体とし

て要るんだということ、日赤、市民病院、開業医といわず地域の医療としてどういった形の連携が必要で効率的か、ということを決め、その中で「市民病院の担う役割は何か」という議論に落ち着きたい。平成23年に日本赤十字病院がどんな形でスタートを切り、そのとき伊勢市民病院の役割は何なのか、ということでこれから議論をしたい。毎年市民病院に4億5千万、一般会計から出しているが、もう無理。大変厳しい環境ではあるが、耐震改修の必要もあるので、もう1、2年の間に方向を決めたい。

委員

主婦の立場から意見の代弁を。

主婦の間では「5年間」というのが非常に頭に入っている。その中で、選手の派遣費が全額負担ではなくなっている。また、生涯教育の中で、講師の先生の補助が減らされている。市長の言われる「世界の伊勢」構想には多くのボランティアが必要。生涯教育によっていろんなことを身に着けた方がボランティアとして活躍できるような状態にしていきたい。

それから、フットボール構想があるが、「何でサッカーだけそんなに」という声がある。そんな中で選手の派遣費は削られている。少子化の中で、教育費だけは削って欲しくない。

市職員のあいさつについて。確かに私も10年前は伊勢に住んでいてしょっちゅう市役所にも行っていたが、全く官僚的で冷たい市役所だと思った。その後小俣に引っ越して、小俣の役場はやさしいところだと感動した。今回合併して伊勢市役所に行く機会も増えたが、10年ですごく役所の受付が市民に優しくなった。これは市長の成果だ。ただ、ケーブルテレビを見て、「議会の本会議の時、役所側の答弁者の何列か後ろに座っている方たちの態度が目にも余るものがある」という意見が出ている。「別に答弁するわけでもないのにいなくてもいい」という厳しい意見もあったので、よろしく願いたい。

市長

教育予算については先ほど言わせていただいたとおりなので、限られた予算の中で工夫、協力をいただきながらすすめたい。生涯学習は大事な課題だと思っている。

今日来ているメンバー(生活部長と合併調整室長)は、地域内分権という、地域の自治のしくみをつくっていただくメンバー。生涯学習を通じて地域とのかかわりを意識してもらわないとそういう気持ちにはなかなかならない。大事な課題なので、ぜひ充実していきたいと思っている。

サッカーについて。manifestoで「サッカーと野球とテニス」と言っている。たまたまサッカーで応援をいただける民間の方がいたので一挙に進んだ。この次はたぶん野球をお示しすると思う。どこまでできるかは、民間の人がどれだけ応援してくれるか。

野球は目途がついたので、いろいろ調整中だが、またお話できる機会があると思う。後はテニスの場所を決めたい。うちがメッカになりうる、あこがれてきていただける場所になりうるような拠点をぜひ整備したい。たまたま応援してくれる民間の方があったから、サッカーが先になっただけなので、ご理解いただきたい。偏った種目でやろうとは考えてない。地域の皆さんにも充分使っていただいて、競技力の向上や地域コミュニティをつなぐ場となっていくことを期待しながら、3種目の整備をしていきたい。

委員

前に小俣町自治区連絡協議会に出席された時に「毎回来ます」と言ったのに、1回も来ない。市長が忙しいのは分かるので、こちらが要求した部長で結構なので、年4回の小俣町自治区連絡協議会定例会に来ていただき、小俣の人の意見を把握して伊勢の方へ反映して欲しい。というのは、合併してから小俣は本当に火が消えている。総合支所に来て寂しいものだ。各課ががががなくなっている。

あいさつ運動と言うが、私は怒っている。2階の教育委員会の職員。廊下で会ってもあいさつすらない。

本庁から直接われわれに通知が来る。「これはどういうことだ」と総合支所に訪ねると、「本庁に一回聞いてみる」と。すべての要望はいったん各総合支所長を通してもらわないと、なんのための総合支所だということになる。実際に小俣総合支所に聞いたらすぐ回答できるような行政のありかたであって欲しい。

市長は議会の承認さえあればいいと思っていないか。市長から横のつながりを広げて欲しい。話を聞くと、住民の要望は議員が窓口になっている。自治会からの要望は、何べん出しても予算の関係で切られる。

自治会のみなさんの意見を聞き、議会が判断するのが本当の行政のありかたなのに、伊勢は、議員の強いところが勝ちなんだ。

市長

違います。そんな風にはなってない。

委員

住民サービスの例を挙げる。ある業者から聞いたが、水道代が銀行口座から落ちなかったら、すぐに赤字の督促状が来た。小俣であれば、一言電話が来る。それが電話もなしに、督促状ばかりぼんぼんと来る。ただ机の上だけの行政をやっている。職員の鍛え直しをお願いしたい。

市長

ご迷惑をかけているかもわからないが、住民のみなさんが不自由のないようにとい

うことで総合支所体制をとらせていただいている。どこかへ聞かずともここですべてのけりがつく、というのが基本。そのための立場の方として、総合支所長に来ていただいている。具体例を後で相談させていただき、総合支所長としての仕事がきちんと通用するような体制がとれるよう、ご指摘いただいたことはきちんと留めさせていただいたので、ご理解いただきたい。

要望の扱いについては、自治会だから、議員だから、という区別は全く無い。でないと、議員のいないところは何もしてもらえないということになる。

委員

ひとつ例を。旧伊勢の議員が「街灯切れてませんか」と伺いに来ている。そんなことは議員のすることではない。

市長

それについてはコメントできないので…。

委員

国民健康保険の保険証がカード化されたが、保険証自体が小さく薄っぺらいものに変えられた。国保は高齢者が多い。このような形だと紛失が絶えないはず。保険証自体は品質のよいものを考えていただきたい。

合併時、債務負担行為でお願いしている事業がたくさんある。その中で駐在所から浄土寺に通じる道路は開通した。宮川停車場線にいたる道路についてもだいぶ進捗していると聞いている。ユニチカ周辺道路については合併以降も続けて進捗をうまく進めていただき、掛橋踏切も立派に完成し感謝している。

しかし現在市道小俣20号線が、500mぐらいの範囲と思うが、中学校の通学路なのだが、通行止めになってすでに2年弱ぐらい経っている。なぜそんなに時間がかかるのか腑に落ちない。また、明野航空学校の横の道路についても、舗装がいまだされていないので、旧態依然として前のままで残っている。ということで、事業の停滞が目立ってきたということがあるので、事業で事業のスピードをもうちょっと高めていただきたい。

市長

どこかわかります？

課長

JAからマस्याへ向いて一つ目の信号の十字路の、農地の中のところです。

会長

これは要望と言うことで。

支所長

20年か21年に全部完成するということを聞いている。計画通りに進んでいると聞いているが、再度産業建設課長に確認する。

会長

国保の保険証は、前に私も聞いたが、あれは三重県統一とのこと。理由は、「紛失が多いので、安価なものにした」ということである。逆じゃないかと思ったが。

委員

県統一と言うことであれば、市長からもひとつお願いします。

会長

まだ発言されていない人は。

委員

教育面の予算をこれから考えていく時期だと思うが、その材料として、現場の声を聞いていただきたい。

行政サイドで「あげよう、あげない」ではなく、現場の声を聞いて予算の作成に携わっていただきたいと思う。

年度初めになってはじめて予算の削減を知ることが多く、どういう理由で削減されたのかも全然分からなくて、あわてることがある。現場の声さえ聞いていただいていたら、そのようなことは少なくなる。市長が言われていたように、耐震面、クーラー面を優先したいというのであれば、どうしてもこれは削減させてくださいという情報が前もってあれば、保護者に協力をいただいてお金を確保するとかの相談ができる。交通指導員の予算削減、夜間パトロール、夏休み子どもプラザの話など、「無くなる」ということが分かれば前もって対処ができるので、教育委員会と学校・PTAとの情報交換をぜひともお願いしたい。

会長

市長、回答は結構ですので、意見としてお持ち帰りください。

委員

ごみ焼却場では、夏場は水分の多いゴミが多く、効率が悪い。しかしビニールを焼

くと、釜はいためるが重油を使わなくていいので、非常に助かるという話を聞いた。農業用のビニールは産業廃棄物で、県外の業者に持ち込んでいるので、これを利用しては、再利用策の意見として聞いておいていただきたい。

委員

合併調整室の方がいるので申し上げるが、合併に関係ないことまで合併のせいになっている。そこで、合併協定事項にある市民に関係のあるものについて、もっとわかりやすく、広報でもケーブルテレビでも良いから、いろんな情報で流すようにしていただきたい。

一例をあげる。伊勢市議会だよりで、職員の定数改正状況を出した。三重の県政だよりも同じような内容を挙げているが、一緒に見えて、ぜんぜん違う。というのは、県のは具体的に説明している。1番にこれ、次にこれ、と時系列で作ってある。

水道料金などの公共料金は、「5年後にこうします」というのは出ている。しかし、5年後にいっぺんに、というのはできない。毎年変わっていく。ところが今年2月にぼつと、二見は伊勢市と水道料金を同じにしました、と広報された。後で、「南勢水道の料金値下げによる差額分で伊勢と二見の水を直結したから」という説明を聞き理解した。しかしなぜそういう風になったのかを簡単に説明し、今後5年後までこうなるというのを時系列で示して欲しい。というのは、あるときいっぺんに公共料金を上げると影響が大きい。小俣は水道料金が上がると1.8倍になるので、小俣の人は神経質になっている。だから、これからいろんなメディアをつかって、合併協定書にはこうなっていますが、現在はこれです。今年はこうでした、来年はこうします、うまくできなかったのはこういう理由です、といったことを広報することをご検討いただきたい。

会長

時間が来た。たくさんの方に発言していただくため、大変厳しいさばきをし、みなさんには大変申し訳なかった。市長もずっと会議で大変お忙しく、この後もあるので、これにて会を終わる。最後に市長からお言葉を。

市長

長時間にわたり、勉強になった。みなさん方が長年積み重ねてこられた様子を今日の質疑の中で確認した。なかなか十分に答えられていない現状があるが、4つの行政がなぜ合併したのかというと、将来安定した行政が送れるように、だ。今ではない。そのため、非常に良かったところに敢えて次のところに進んでいただいたと思い、その道を決めたみなさんに心からの敬意を表したい。

合併をしてもかなりの締め付けがはじまっている。合併していないところも時間の問題。それぐらい財源が乏しくなっている。仕送りが途絶えるわけだから、自前で稼

げるところに投資をしていかななくては、誰もお金を恵んでくれない。出る方の仕事についてはセーブが多いが、入れるための仕掛けはある程度挑戦していかないと、長い目で見てらちがあかないのではないかと思う。見ていて危なっかしい面もあるかと思うが、市民のみなさんにチェックを受けながら、将来に向かって取り組んでいくことは、自重することなく挑戦していきたい。

小侯の方からはいろんな声が入ってきている。「何にもいいことない」と。しかし、もう少しお待ちいただきたい。必ずあるとき、「合併して良かったな」と思えるまちなしていきたい。

今日は本当にどうもありがとうございました。

会長

市長、貴重な時間をありがとうございました。小侯独特の厳しい意見ばかりでしたが、今後ともまたよろしくお願いします。

(一同拍手、市長、生活部長、合併調整室長退席)

会長

ありがとうございました。たくさんの方から非常にいい発言が出た。市長は「すごく良かった。参考になる意見を聞かせていただいたので、充分市政に反映させていただく」と感謝され帰って行かれた。このような機会をぜひ作って欲しいと申し上げると、また時間があればおっしゃってくださいということであったので、これからも続けたいと思う。

諮問に対する答申を各部会でやっているが、まとまってきたか。

部会長

具体的にはでているが、それを煮詰める必要がある。それを11月にやりたい。

課長

任期中なので最長で7月まではいいのだが、ある方から部会の進捗状況報告の場を全体で設けては、という意見を聞いている。

会長

11月に中間報告と言うことで、来年早々に集約する。それでどうか(異議なしの声)ではそれでさせていただく。

これで審議会を終了する。ありがとうございました。